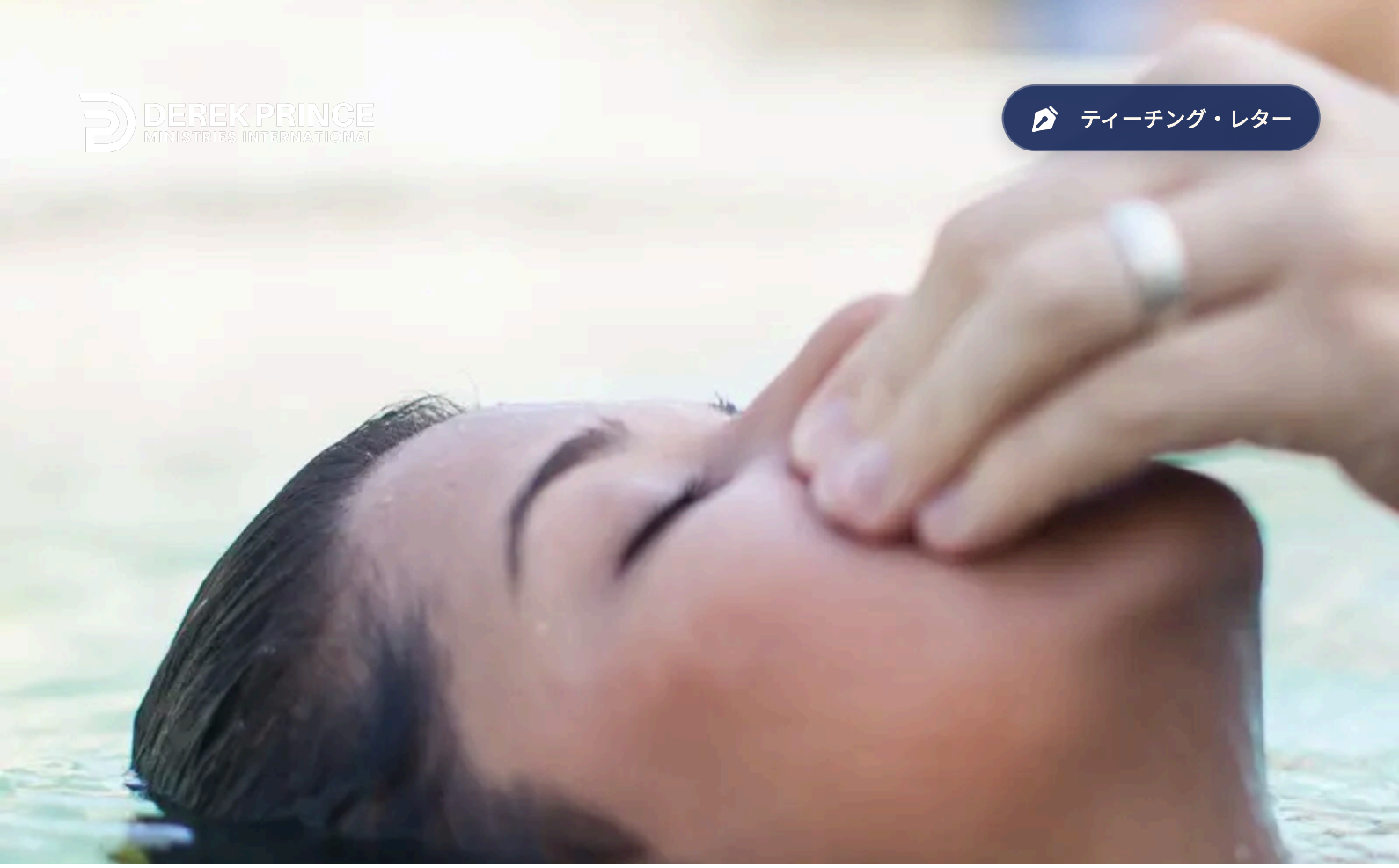


古い性質を葬る



ティーチング・レター
著者 デレク・プリンス

ペンテコステの日のペテロの説教の最後に、それを聞いていた人々(心を刺されてはいたけれど、まだ改心していなかった人々)は、こう尋ねました。*「兄弟たち、私たちはどうしたらよいでしょうか。」*(使徒 2:37)。この質問に神と教会のスポークスマンであったペテロは、明確に、即座に答えます。*「悔い改めなさい・・・バプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」(38 節)。これは、神との和解を願うすべての罪人への神の完全な備えです。それは、3つの関連する体験から成っています。悔い改め、バプテスマを受ける、聖霊を受ける、です。この神の備えは、決して変わることがありません。今日もなお同じです。*

この神の備えの中心は、水のバプテスマです。新約聖書全体において、バプテスマは常に救いに直接関連しています。初代教会は、バプテスマのない救いというものを知りませんでした。ペンテコステ以降、すべての回心者は、通常悔い改めたその日にバプテスマを受けました。バプテスマには、イエス・キリストの教会の提示が含まれていました。ピリポはサマリヤに下って行き、そこの人々に「キリストを宣べ」ました。その結果、信じた人々は、バプテスマを受けました(使徒 8:12)。のちに、ガザへの道で宦官に出会い、ピリポは、「イエスのことを宣べ伝え」ました。その結果、宦官はバプテスマを受ける最初の機会を得ました(使徒 8:38)。ですから、バプテスマが新約時代の教会によって提示されるイエス・キリストのメッセージの不可欠な部分であったことは、はっきりしています。この理由から、教会がバプテスマの明確で肯定的なメッセージを提示し続けるべきであることは、言うまでもなく重要なのです。

疑問点

教会の歴史全体で、様々な教団、教派の大半が、マタイ 28:19 に記録されているイエスの大宣教命令の「父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け...」というバプテスマの教えに基づいています。しかしながら、多くの場合この基礎には疑問が呈されます。その位置づけでは、バプテスマに関するいくつかの誤った教えが提示されてしまうのです。それらは以下のようにまとめることができるでしょう。

1. ペンテコステ以降、初代教会で行っていたバプテスマは、イエス・キリストの御名におけるものだけであった。
2. マタイ 28:19でのバプテスマの形は、新約聖書の他の書物による確認がないため、信頼性と根拠に欠ける。
3. 「父、子、聖霊の御名によって」バプテスマを受けた信者は、「イエス・キリストの御名によって」バプテスマを受けなおすべきである。

4. 新約聖書のバプテスマは、旧約聖書の割礼に相当する。そのため、正しい方法でバプテスマを受けていない信者は、霊的に無割礼である。

これらの不正確な教えは、単にバプテスマについてだけではなく、その不正確な教えを支持するために非聖書的な議論さえ用いられてしまうゆえに、きちんと取り扱う必要があります。これらの議論の性質は、バプテスマの理解に影響を与えるだけでなく、新約聖書の書物や一般的な教えの有効性を確証する基本的原則にも影響を及ぼします。そのため、以下の記事でそれぞれの簡単な分析とともに、この教えについてのいくつかの関連事項を説明します。それぞれのケースのこの誤った教えを太斜字で表わします。それに続いて、私の分析を普通の字体で表わすことにします。

イエスの御名

父、子、聖霊の御名によって」バプテスマを受けた人は、イエスの御名によるバプテスマを受けていないと言う。クリスチャンとしてバプテスマの資格を得るために、イエス・キリストが神の御子であることをすでに認識していなければならない(参照:マタイ16:16、ヨハネ20:31、Iヨハネ4:15、5:5)。バプテスマを授ける人も受ける人も、すでにこの認識を持ち、「御子」の名によるバプテスマは、イエス・キリストの御名によるバプテスマであるという事実によるものとする。

イエスとは一つの名であるが、父と聖霊は名前ではないと言う。英語では、ウィリアムやジョージのような個人名と王や大統領といった肩書の区別をします。しかし、新約聖書の著者が、神に相当する父という語において、原語のギリシャ語でこの区別をしていないことは明らかです。新約聖書には、父という語が直接使われている多くの箇所があります。例えば、ヨハネ17:5-6 でイエスはこう言っています。*「今は、父よ・・・わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。」*

イエスの御名においてバプテスマを受けた人のことを語っている聖書箇所は、その人がイエスの御名によってのみバプテスマを受けたのであって、他の名やことばは付け足されていないと言う。これは、聖書からは証明できない推定論です。イエスの御名によってバプテスマを授けている様々な聖句で、イエスの御名によってのみと言ったような語は付け足されていません。

これは、おそらく新約聖書の他の箇所から説明できるでしょう。マルコ 5:1-2でマルコは、「・・・汚れた霊につかれた人」がイエスを迎えたと言っています。マタイ 8:28 でマタイは、「・・・悪霊につかれた人がふたり・・・イエスに出会った。」と言っています。マルコとマタイは同じ出来事を書いていますが、マルコは「人」、マタイは「ふたり」と言っています。しかし、矛盾はしていません。実は、二人の人がいましたが、マルコは、そのうちの一人だけに言及したのでした。もし、マルコが「一人だけ」と書いていたら、そこには矛盾が生じるでしょう。しかし、そのようには言っていません。マルコは「人」と言った事実から、一人だけであったとみなされるかもしれません。しかし、そのような推測は誤っています。

同様に、イエスの御名によってバプテスマを受けた人のことを記述しているという聖書の事実だけで、これらの人々がイエスの御名によってのみバプテスマを受けたという推測の理由にはなりません。他の反対の証拠なしに、別の語や語句が付け加えられたという可能性を開かせてしまいます。

バプテスマの方法

マタイ 28:19で記録されているバプテスマの方法の用い方を承認する新約聖書の他の箇所はないと言う。これは、まったくの間違いです。使徒の働き 19:1-5 に、エペソでパウロと幾人かの弟子たちが出会った記録があります。見たところ、パウロは最初、その人々がクリスチャン(キリストの弟子)であると思っていたようです。しかし、彼らと話してみると、彼らは単にバプテスマのヨハネの弟子であることがわかりました。クリスチャンのバプテスマを受けたのではなく、バプテスマのヨハネのバプテスマを受けただけでした。ヨハネのバプテスマには、悔い改めと罪の告白という2つの基本的条件があり、それはいかなる名によってなされるものでもありませんでした(マルコ 1:4-5)。

パウロは、それらのエペソ人のクリスチャンたちに尋ねました。*「信じたとき、聖霊を受けましたか」*。これに対する答えは、*「いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした」*でした。パウロは続けて、*「では、どんなバプテスマを受けたのですか」*と聞きました。これは自然な質問です。なぜ、ヨハネは聖霊について聞くことと、バプテスマの方法を即座に関連付けたのでしょうか。理にかなった説明は、パウロが知っていたクリスチャンのバプテスマは、父、子、聖霊の御名によるもの、あるいは、さらに文字通り、それらの御名の中におけるものであった、です。ですから、それらの人々がクリスチャンのバプテスマを受けていたなら、バプテスマの時に聖霊について聞いていたはずです。このような理解から、使徒 19:2-3 は、マタイ 28:19を確証しています。

マタイ 28:19の認められた記録を否定するために出された唯一の意見は、本質的、教理的議論に基づきます。これらは、主観的で、客観的ではありません。先に述べたことに照らし合わせてみると、これらの教理的議論は、何の重みももたらさないと私は感じています。もし、私たちがマタイ 28:19の有効性についての疑問の議論を受け入れるとしたら、等しく異議を唱えることができるはずの新約聖書の他の数多くの聖句に対して何も定義可能な制限を失ってしまうでしょう。

結局、もはや聖句が教理の権威者でなく、教理が権威者となってしまうことになります。明らかに、それは誠実ではない無関心な立場のクリスチャンを残すという、危険で広範囲な意義の逆転になってしまいます。

マタイ 28:19 以外の新約聖書の他のすべての聖句では、別の一つの不変の方法がバプテスマに関して用いられていると言う。

これは間違っています。実際、様々な語句が用いられています。使徒の働き 2:38 では、「イエス・キリストの名によって」とあります。ここで訳されているギリシャ語の前置詞は、マタイ 28:19 や使徒の働き 19:5 で使われているものと同じではありません。その通常の意味は、「~に基づいて」です。「イエス・キリストの御名に基づいて」という語句は、「イエス・キリストの権威に基づいて」という意味で訳されています。おそらく、その意味するところは、「イエス・キリストの告白に基づいて」でしょう。それは、「イエスはキリスト(主)であるとの告白に基づいて」です。

これは、その直前の使徒の働き 2:36でペテロが言った、*「ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」*と一致します。このように、この使徒の働き 2:38のことばは、イエスがキリスト(主)であるという認識がクリスチャンのバプテスマを受けるための基本的条件であることを言っています。この条件はどんな表現法が用いられようと、変わることはありません。

私の個人的な信念は、新約聖書のクリスチャンにとってバプテスマは最重要の問題となるので、一つの特定の方法を用いることを認めなかったのではないかということです。彼らは表現法よりも、極めて重要な個人的体験を重んじました。一つの特定の方法に基づく厳格な主張が主要な問題となる時、真のいのちと聖霊の自由は、もう教会から退いていっています。

聖書的確証

同じことが書かれている他の聖句が少なくとも一箇所はない限り、聖書のことばは教理のための有効な基礎を提供していないと言う。もし、私たちがこの理論を当然の結論と主張するならば、それはこのように言うことと等しくなります。「私たちは、神が最低 2回は言わない限り、それは確かに神が言っているかどうか分からない。」明らかに、敬虔なクリスチャンは、このような結論を受け入れることはできません。

聖書が少なくとも 2 回言及している必要があるというこの理論は、「ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。」(参照:申命記 19:15、マタイ 18:16)の教えに基づいています。しかし、この原則は、公正なさばきや異なるグループ間の対立の場合において立証される、人間の証言の有効性に対する手順に適用されるものです。それを、神ご自身が直接語られたことばに適用することは正しいことではありません。

もし、私たちがこの原則を厳しく聖書に適用するならば、各聖句を裏付ける他の2つの箇所を見つけるだけでは十分ではなくなるでしょう。私たちは各聖句に言及している2人の著者を見つけなければなりません。1人の著者が同じことを何度も言っていることは問題ではなく、その著者は一つの証言をしているにすぎません。

事実、聖書に適用するというこの理論は、聖書自体に反するものです。IIテモテ 3:16 でパウロは言っています。*「聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」*パウロはいかなる方法でもこのことに制限を設けていません。彼は、「聖書はすべて教えのために有益で、聖書のいくつかの他の箇所によって確証されています。」とは言っていません。聖書が「神のことば」であるなら、イエスがヨハネ 10:35 で言っているように、それだけでその有効性を証明するのに十分なのです。*「・・・偽ることのない神が・・・」*(テトス 1:2)、*「神のことばは、すべて純粋」*(箴言 30:5)、*「あなたのみことばは真理です」*(ヨハネ 17:17)。

一度だけしか聖書に出てこない多くの重要なことばや記録があります。イエスの大祭司としての祈りは、ヨハネ 17章にしか記録されていません。ふたりでも三人でも、イエスの名において集まる所には、イエスもその中にいるということばは、マタイ 18:20だけにしか記録されていません。クリスチャンとして私たちはすでにキリストとともに天の所に座しているという事実は、エペソ 2:6でだけ言われています。主の再臨で信者が空中に引き上げられ、主と会うという事実はIテサロニケ 4:7 だけで言われています。これらは、多くの例のほんの一部です。

しかし、私たちが知っておかなければならない重要な原則が一つあります。私たちが受け入れるために、聖書で複数回言及されている教えについては、それが書かれている聖書のすべての箇所が一致していなければなりません。これは、バプテスマに関する新約聖書の教えにも当てはまります。私たちが完全に受け入れるに値するために、すべてのバプテスマについての教えは、このテーマに言及している聖書のすべての箇所と一致していなければなりません。これは、マタイ 28:19も含みます。

霊的に無割礼の者

新約のバプテスマは旧約の割礼に相当するため、正しいかたちでバプテスマを受けていないクリスチャンは「割礼」を受けていないと言う。ローマ 6:4 とコロサイ 2:12 は、バプテスマは葬られることだとはっきりと言っています。「私たちは・・・バプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。」 埋葬の前に、埋葬される遺体がなければなりません。バプテスマにおいて、この遺体とは、古い人、罪のからだ、肉のものです。「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられた・・・」(ローマ 6:6)、「もしキリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても・・・」(ローマ8:10)、「キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を・・・十字架につけてしまったのです。」(ガラテヤ 5:24)。この文脈において、からだや肉といった語句は文字通りの物理的なからだを意味するのではなく、むしろアダムから受け継いだ肉的、反抗的な性質です。キリストを信仰によって救い主、主であると受け取るとき、この古い性質は死にます。その後、バプテスマの行為によってその古い性質は葬られます。

一つのことが明らかです。私たちは、人を死なせるために埋葬するのではありません。葬る権利を得る前に、その人はすでに

死んでいなければなりません。同様に、バプテスマによって私たちが古い性質を葬ることができる前に、キリストへの信仰を通した古い性質の死がすでになされていなければなりません。バプテスマは古い性質を死なせるものではありません。古い性質の死がすでに行なわれたことは、表面的なしるしです。洗礼の行為によって古い性質の死を達成しようとする人は、非論理的、非聖書的な道をたどっており、望ましい結果を生み出さないでしょう。

パウロは、コロサイ 2:11-12 でこの順序を非常に明確にしています。第一にパウロは、私たちはクリスチャンとして、*「キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ・・・」*と言っています。これは、理論的な順序で、逆にはできません。私たちはまず、キリストの割礼によって肉的な罪のからだを脱ぎ捨てなければなりません。その後、すでに脱ぎ捨てたこのからだをバプテスマによって葬らなければならないのです。その割礼とは、からだを脱ぎ捨てることです。バプテスマは、そのように脱ぎ捨てたからだを葬ることです。ですから、割礼はバプテスマではありません。割礼は脱ぎ捨てることで、バプテスマは葬ることです。

ピリピ 3:3 で、パウロは新しい契約の真の「割礼」を説明しています。こう言っています。*「神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。」* ここにはバプテスマへの言及はありません。これに対して、「人間的なものを頼みにしない」という箇所は、コロサイ 2:11 の「肉のからだを脱ぎ捨て」に呼応します。割礼は、そのように「肉のからだを脱ぎ捨てる」、すべての「人間的なもの」への信頼の放棄です。バプテスマは、脱ぎ捨てたあとの肉のからだの埋葬です。これらの 2 つは密接に関連していますが、同一のものではありません。

あなたは古い性質を葬りましたか

バプテスマに関するこの種の教えに対して、ある疑問がしばしば起こってきます。そのうちの一つは、こうです。― バプテスマのあと、聖書がそれに続くと言っている人生における結果の経験をしないなら、その人のバプテスマは無効だったということになるのか ―

そうとは限りません。これは、聖霊のバプテスマとの比較によって説明できるでしょう。真の聖書的な聖霊のバプテスマの経験を受けたにもかかわらず、聖霊のバプテスマに続くべき結果の多くが、その人のその後の人生に欠けているかもしれません。その解決法は、聖霊によって再度バプテスマを受けることではなく、最初の聖霊のバプテスマをさらに効果的にするための悔い改め、献身、祈り、聖書の学びなど、神が求めておられる条件を満たすことです。

同じ原則が水のバプテスマにも当てはまります。水のバプテスマは時に、その適切な効果を生じることができないことがあります。それは、バプテスマを受けた人がクリスチャンの義務の他の面において怠慢だからです。そのような人にとって、再度バプテスマを受けることは、他の領域での失敗を直視することからの簡単な脱出法にすぎません。私は、3、4回バプテスマを受け、簡単にもう一度試そうとする何人かに出会ったことがあります。これは、水のバプテスマを一種の宗教的ワクチンのレベルに引き下げています。最初に何も起こらないなら、結果が出るまで繰り返すのです。そして、結果が出たとしても、何年か経ってその効果が薄れてくると、その人は再びワクチンを接種(再びバプテスマを受ける)なければならないのです。明らかにこれは、聖書的なバプテスマを表わしてはいません。

自分のバプテスマの有効性に悩むすべての誠実な信者のために、私は一つの単純で基本的な質問を提示します。あなたは本当に葬られる経験をしましたか。罪悪感、束縛、反抗、偽りの伝統、悪霊との関わりといったような過去をはっきりと断ち切りましたか。それらのものがもはやあなたを煩わせることができないほど視界の外に押しやりましたか。それに続いて、信仰と聖霊の力によって新しい人生を歩む復活がありましたか。

これらの質問への答えが、「Yes」であるなら、あなたは葬られました。その後、新しい方法で2度目に古い性質を葬るためだけに、その墓からそれを再び掘り起こすことは、愚かで、非聖書的です。

一方、上記の質問に対する答えがはっきりと「Yes」と言えないなら、あなたは葬られたことがないということです。熱心に主を求め、どうすればいいかを示してくださるように主に祈ってください。おそらく、主はあなたが葬られることを求めるでしょう。もし、そうであるなら、このことを覚えておいてください。あなたはバプテスマをやり直すのではありません。あなたは、初めての真のバプテスマを受けるのです。

葬られて、復活がないところには、バプテスマはなかったということです。

ティーチング・レター

原稿: TL-L078-100-JPN
最終更新日: 15 Oct 2026
ウェブサイト: Derekprince.com/ja/resources

